

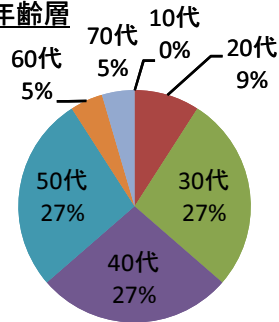
米原市自治基本条例講演会(情報共有研修)

報告書

- 1 目的** 市民および市職員を対象に、自治基本条例の基本原則の一つである「情報の共有」に関する講演会(研修)を実施することにより、協働のまちづくりにおける情報の重要性を再認識し、市民および市職員が情報の発信や受信に長け、さらに情報を活用できるような人材となるために行う。
- 2 対象** 市民(自治基本条例推進委員会委員を含む)および市職員
- 3 日時** 平成 24 年9月 25 日(火) 午後6時 30 分から午後8時 20 分まで
- 4 会場** 米原公民館 大ホール
- 5 テーマ** 情報共有で進めるまちづくり
- 6 講師** つちやま きみえ 土山 希美枝氏(龍谷大学 政策学部 准教授)
- 7 参加者数** 75 名
- 8 内容** 龍谷大学土山准教授に、自治基本条例の5つの基本原則の一つである「情報の共有」をテーマに話をいただきました。
その要旨としては、情報があるだけでなく情報を「持つ」という状態は、対話や議論によって「自らのもの」にするということ、その対話や議論によって得られた意見や合意が新たな情報となって生み出されていき、この連続が「情報流」になり、それが情報の共有となるのではないかと。そして、対話と議論が展開される情報共有の場にいることが「参加」であることから、情報と参加はセットでないといけない。
また、対話と議論は「いいコト」というより「必要なコト」であり、政策をめぐることは、市民も行政も「間違いうる」ことから、対話と議論の場をできるだけ多く用意していくことが重要である、というお話でした。
その他にも、市の情報発信がうまくできていないのであれば、まずルールを作り、ルーティンワークとしてしまうことで一定の発信はできると、市職員の情報共有のあり方についてもヒントをいただきました。
その後の質疑応答においても、参加者から多くの質問が出され、予定した終了時間を超過して熱心にお答えいただきました。
- 9 その他** アンケートの結果は別紙のとおり(有効回答数は 44 通)

米原市自治基本条例講演会 参加者アンケートの結果

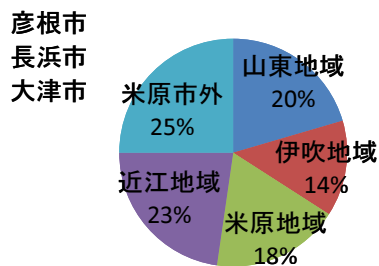
問1 参加者の年齢層



N=44

本講演会は、市職員を対象にした研修会という位置付けであり、参加者は50代までが9割を占めました。

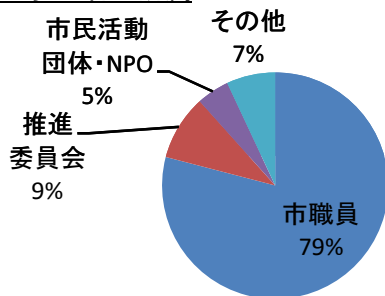
問2 参加者の住まい



N=44

市外からは、彦根市4人、長浜市2人、大津市1人の参加者がありました(うち市職員は6人)。

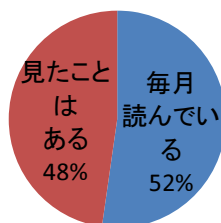
問3 参加者の所属



N=43

市職員対象にした研修会ということもあり、市職員が8割を占めました。

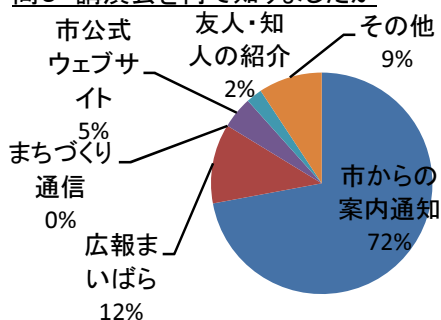
問4 ホタルン自治基本条例メモの認知度



N=44

広報まいばらに連載中のホタルンの自治基本条例メモは、多くの人に読んでいただいていることがわかりました。見たことの無い人はゼロでした。

問5 講演会を何で知りましたか



複数回答

広報まいばら9月1日号の案内を見て参加された人が12%もありました。またチラシの担当者のコメントにひかれて参加された方もおられました。

問6 講演会の満足度は(5段階評価) 3.47

問7 ご意見、ご質問、感想など	年代	所属
・例えがわかりやすい。 ・一つの課題にいくつもの解決策が必要ではないか？ ・市民が選べることも大事な？ ・情報を流しても受け取る側に、受け皿が出来ていない問題はいかに・・・。	5	2
質疑が充実していた。	5	1
内容は良かったが、話が長かった。	3	1
・わかりやすかった。 ・自治基本所条例の存在意義が少しわかりかけた。面白かった。	2	1
地域課題の解決のために、情報を共有することの意味が良くわかった。	4	1
情報の共有という中で、例えば、災害時の要援護者や生保者など個人情報の取扱いについて、民生委員等との情報共有に当たって、個人情報との兼ね合いもあり、難しいところがある。参考までに、土山先生の考え方を教えてほしい。	5	1
丁寧に話をいただいたと思うのですが、少し内容が難しく十分に理解できなかった部分があった。もう少し自治基本条例を改めて読み直してみます。	4	1
話し方を聞いて、聞きたくなる話し方で頑張ったと思う。理解するのに難しい点もあったが、イメージを描ける内容は、何かヒントのようなものを得られた気がするが、まだまだ実際に内容として情報共有、公開は難しいなと感じた。信念を持って、きちんと理由を述べ、判断したことなら、ぶれないので、結果がどうあれ『説明できる』ことが気付いた点であり、「正しい回答」があるかないかとは意味が全く変わってくることに、なるほどと感じた。行政も市民も姿勢を変えていければ、議論も発展できるのかなと思った。	2	1
・参加者が少ないように感じた。 ・質問が多く出て良かった。 ・このような講演会は堅苦しい雰囲気だというイメージが有りましたが、今回は、土山先生のような若くて親しみやすい講師だったので、楽しくお話を聞くことができました。	2	1
チラシに載っている担当者のコメントにひかれて来ました。確かに前評判どおり賢くなった気になりました。時間の制約もあると思いますが、短い時間では自分事まで落とし込めなかったですね。元が賢くないので。地上戦を展開していただけたら面白かったかなー。	4	4
・情報の共有の大切さを改めて認識した。 ・何が情報の共有化を学ぶことができた。	7	1
期待はずれでした。	5	5
・話が抽象的だった。 ・新しい気付きになるものが見つからなかった。	4	1
一般市民の参加が少ない。	7	5
最後、地域の人材にも触れていただきほっとした。地方分権で自立のまちづくりは、人材の宝の持ち腐れの地域もあります。男社会だからでしょうか。市民それぞれが活かされるまちでありたい。	6	2
参加者が少なかったが、市民にとって自治基本条例に関心が無いことがわかった。	5	5
“協働”という言葉にどのような問題が有るのか	3	1
行政=正しいではなく、様々な人と話し合っ、正しい答えを見つけていくという考えは難しいけど、大切なことだと思いました。とてもためになりました。ありがとうございました。	2	1
・政策に正しい回答は無いと聞いて安心した。そのために、対話と議論を重ねて判断の根拠を作る必要があるとの話に、より一層の情報発信に心がけていくことが大切だと感じた。 ・市の実施している事業についても、不要な事業があると感じているので、それを市民に納得を得られるように、中止したり辞めていくためにも、対話と議論を重ねるべきだと考えさせられた。	3	1

